士、三日會せずんば當に刮目して見る可しと言ふものゝ、お互ひに親のすねを嚙つて死學を研究して居るのだと思ふと腹の底から欠伸の三つ四つせざるを得んれ、一生懸命になつて獨逸語や、英語や、支那語や、佛語やを勉強しても、それが實社會には少し毛色の變つたハイカラを仕立てるまでゞ何の足しにもならんのだ。だから近い内に僕は學校を止めて活社會奮鬪裡に立つ考へ、どうせ僕相當の事しか仕出來さんだらうが、其時には刮目して君にも見て貰ふぞ。

評　文章よりは思想が面白い。希くは決行したまへ。

大阪宮内文藻　後治

宿を換へて

小田原　中川吹袖

僕は轉宿したぜ君、來て見るとすべてに物が大きい草藪を添うて厠に立てば、羅り出る蝦蟇がまづ大きい蚊も蚤も無論大きい、鷄の聲も大きくなつたやうだ。鐘の音が家の中へ大きく聞える、昨夕の雷鳴が恐ろしく大きかつたと思つたら、今朝は海鳴りが馬鹿に大きい。

君、度胸を大きくしに來ないか。

評　大きいものを並べたばかりで、情趣といふものがない。

野より

下野穴原吟月

萬頃の稻田をそよりとも風渡らず、雜草の乾く匂ひのみ高き午後二時頃は、田の水が湯と沸いて正に百度以上の强熱に相成り候。

そが中に、野生は歸省以來、一日も休まず、蟬やきりぎりすと共に唄ひつゝ、草取りを致し居り候へども、日射病などには指でもさゝれぬ幸運兒に候間御安心下され度候。

評　君は暑中休暇を最も善用したものだ。

桔梗にそへて

伊豫　山口虎松

殘月夢のやうにかゝる曉の野邊、鈴蟲姫の歌美しき中に、こぼるゝばかりの露帶びて咲くゆかりの一枝。露ちらぬやうそと手折りてまゐらせさふらへども、彼歌の聲のみは心に任せず候。

評　何處となしに、うるほひがある。

里の妹に

岩代　水野仙子

色が黑くなりましたの、田舍言葉が上手になりましたのつてまあ自慢げな……叔母さんの云ふことを少しも聞きませんで？お氣の毒樣。あの子は帽子が大嫌ひでしたが、蟬取りや蜻蛉とりには是非れ、叱つても寇せてやつて下さいよ。何にしてももう大がいにして歸らして下さいな、晝は獨りでせう。だものだから淋しくつて〳〵仕樣がないの、數へて見たらもう三週間になりました。お母さんによろしく。さよなら。

評　母親氣質がよく出てゐる。

今度の家

京橋　江原燈影

今度引越した家は川添ひで、前には苦をかけた船が始終とまつてゐる。雨が止むとその船の苫の中から、逞ましい黑い顏がにつゝきり出て、空を仰ぐのも何となく……い。家の脇に大きな柳がある。今はこんもりと茂つてゐて、晝頃は車力なぞがその下に疲れきつた身體をもたせてよく寢てゐる。

涼しい風に吹かれ乍ら、塲所もかまはず寢る彼等の境遇が羨しいやうな氣もする。兎に角今度の家は先のやうな騷がしい大通りと違つて、小さい乍ら川には悠久な自然の姿も見える。一度是非來て呉れ給へ。

評　畳も新らしいことだらうね。そのうちにお伺ひしようといふ返事が來さうだ。

大山山麓の宿より

伯耆　山桝讓二

南の窓に寄らむか、伯耆富士はぬッと高く、目睫の間に迫り候。蓋先お手紙ありがたう。